



# 御調プライド

「当たり前」の事を「当たり前」に

令和2年5月14日(木) 第3号(特別号)



## 「そうぞう」しよう！ ～心一つに みんなで乗り越えよう～



生徒の皆さん、体調はどうですか。元気にしていますか。

5月8日(金)に続き、2度目の分散登校です。生徒の声がない学校の寂しさを私たちはいやと言うほど痛感し、日々過ごしています。

今、私たちは感染者数等の動向や国内外での医療崩壊、外出自粛等による自身の生活への影響を目の当たりにしてきており、このウイルスとの戦いが長期戦を余儀なくされる中、全く不安を覚えない人はいないと思いますし、ワクチンや特效薬が開発され、沈静化の道が見えない限り、不安は積み重なる一方ではないかと思えます。そうした中、この新型コロナウイルス感染症拡大防止に係り、様々な方面から様々な形でメッセージが寄せられています。

今回は、日本赤十字社からのメッセージを紹介したいと思います。

### 赤十字社「恐怖から負のスパイラルが広がる」

新型コロナウイルスの感染が拡大する中、医療従事者や感染者への偏見や差別が問題となっている。こうした中、日本赤十字社が4月21日、「人と人が傷つけあう状況はウイルスよりも恐ろしい」と警鐘を鳴らす動画を公開しました。日本赤十字社広報室は、動画のねらいを次のように話しています。

「**新型コロナウイルスは、"体の感染症"、"心の感染症"、"社会の感染症"の3つの顔を持っており、これらが"負のスパイラル"としてつながることで更なる感染の拡大につながっていく**ことを伝えるため、日本赤十字社では、この負のスパイラルを知り、断ち切るためのガイドをホームページ上で公開しておりました。それを更にわかりやすく伝えることを考え、今回の絵本アニメーションでの表現を企図しました」

**"体の感染症"は病気そのもの、"心の感染症"は不安と怖れ、"社会の感染症"は嫌悪・偏見・差別**を指します。動画では心の感染症である「恐怖」から広がる負のスパイラルを描いています。

「この感染症の問題のひとつは、**嫌悪や差別が、感染者や感染が疑われる方など、『人』に向かっていくことです。本当に戦わなくてはいけない相手は、『人』ではなく『ウイルス』と、ひとりひとりの心の中にある『恐怖』です**」(広報室)

ウイルスがもたらす  
第1の“感染症”は  
病気そのものです

このウイルスは、感染者との接触でうつることがわかっています。  
感染すると、風邪症状や重症化して肺炎を引き起こすことがあります。

ウイルスがもたらす  
第2の“感染症”は  
不安と恐れです

このウイルスは見えませんが、ワクチンや薬もまだ開発されていません。  
わからないことが多いため、私たちは強い不安や恐れを感じ、ふりまわされてしまうことがあります。  
それらは私たちの心の中でふくらみ、気づく力・聴く力・自分を支える力を弱め、瞬く間に人から人へ伝染していきます。

ウイルスがもたらす  
第3の“感染症”は  
嫌悪・偏見・差別です

不安や恐れは人間の生き延びようとする本能を刺激します。  
そして、ウイルス感染にかかわる人や対象を差別するなど、人と人の信頼関係や社会のつながりが壊されてしまいます。

なぜ、嫌悪・偏見・差別が生まれるのか

見えない敵(ウイルス)への不安  
特定の対象を見える敵と見なして嫌悪の対象とする  
嫌悪の対象を偏見・差別し遠ざけることでつつかの間の安心感が得られる  
嫌悪の対象を偏見・差別し遠ざけることでつつかの間の安心感が得られる  
見えない敵(ウイルス)への不安  
特定の対象を見える敵と見なして嫌悪の対象とする  
嫌悪の対象を偏見・差別し遠ざけることでつつかの間の安心感が得られる

### 「身体の距離は遠く、こころの距離は近くに」

日本赤十字社「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう！～負のスパイラルを断ち切るために～」から

「積もった雪」

上の雪  
さむかるな  
つめたい月がさしていて  
下の雪  
重かるな  
何百人ものせていて  
中の雪  
さみしかるな  
空も地面(じべた)もみえないで

『金子みすゞ名詩集』より

「そうぞう」してみよう。  
先日『金子みすゞ名詩集』を読みました。皆さんにその中の詩の一つを紹介します。(季節感がないのはご愛嬌ということで・・・)  
彼女の作品は細かい描写の中、繊細で温かな眼差しが感じられ、とても心が落ち着くとともに、感性を磨かせてくれます。  
この詩は積もった雪を上、下の雪、中の雪と三段にとらえています。上の雪と下の雪はイメージできても“中の雪”をさみしかるなと想像できる感性には本当敬服します。先を見通せないストレスからつい自己中心的になりがちな状況にありますが、それを乗り越え、精神的に一回り成長した皆さんと再び学び合えることを楽しみにしています。